

研究発表 1

「愛知学院大学図書館情報センターラーニング・コモンズ設置と今後の課題」

愛知学院大学図書館情報センター 榊原 飛鳥

愛知学院大学では、平成25年10月、図書館情報センター本館1階の旧閲覧スペースを大幅に改築、ラーニング・コモンズを設置した。

図書館情報センターはキャンパス内でも、正門に最も近く、学生・教員の通行量の多い場所に位置している。ラーニング・コモンズは、この通行量の多い回廊に面して設置され、館内・館外いずれからも入室可能となっている。回廊側壁面はガラス張りのため、通行者から内部の様子を見ることができる点も、利用者・通行者双方にとって学習意欲を刺激する効果が期待される。

ラーニング・コモンズ内は、グループワーク、個人学習、リラックスと利用目的別にゾーン分けされており、グループワーク用ゾーンには可動式の机・椅子・ホワイトボードを用意、利用者が自由に学習空間を組み立てられるようになっている。プロジェクタ、プリンタ、貸出用パソコン、ラーニング・コモンズ内閲覧専用の資料として、学生が利用しそうな参考図書類、興味を持ちそうな読み物など約200冊を備えているほか、自動販売機もあり、飲み物可、携帯電話での通話可とするなど、学生が図書館情報センター内に長時間留まり、学習に集中できるための工夫をしている。

今回は、ラーニング・コモンズ設置の経緯と施設のご紹介、現在までの利用状況につき、事例発表するとともに、今後の課題につき考えてみたいと思います。

研究発表 2

「学修支援の基盤構築をめざして」

花園大学情報センター（図書館） 塚田 知子

「学修支援の基盤構築をめざして」と題して、本学図書館がここ数年のあいだに取り組みを進めて来たことについて報告する。

第一は、計画的で迅速な資料収書への取り組みについて。本学では、2011 年度より教員による学習用資料の選書・発注方式を紙ベースから Web を使った方式に変更した。必要な時に、必要な資料を迅速に揃えること、配架処理のスピードアップと計画的な予算管理の徹底、業務の効率化を図ったものである。学修のためのコンテンツ整備に関連した取り組みとして報告する。

第二は、シラバス掲載の「参考文献」や教員による「おすすめ図書」など、特に重点を置いている学習用図書の収集について。これらの資料について、学生の目に留まるよう、配置場所や OPAC での検索方法を工夫したことなど、資料情報の提供の仕方についても事例を挙げて紹介する。

第三は、初年次教育の授業カリキュラムに組み入れられている「情報リテラシー教育」に関する報告。本学では、従前から行ってきた初年次教育に関する授業を改編し、「アカデミック・スキル」（前期全 15 回）という授業を設置した。図書館では、その中の一単元である「情報収集」を担当し、2 回教員と協同で様々な文献検索等に関わる実習を行っている。実習授業の内容を含め報告する。

研究発表 3

「学生の自ら学ぶ力を育成する大学図書館の取り組み」

聖カタリナ大学附属図書館 玉岡 兼治

聖カタリナ大学は愛媛県松山市に所在する短期大学を併設した学生数800名ほどの小規模大学である。附属図書館は大学の開学とともに1988年に設置された。図書館は教室・研究室・福利厚生施設のある建物（学部1号館）の2階に設置されている。学生教職員の利用に供しているのは2階のワンフロアである。（1階には書庫がある。）所蔵冊数は約14万冊。フロアには従来からの書架・閲覧スペースに加え、パソコン23台とプリンター3台を設置したコーナー、同じフロアに別室としてグループ学習室を設置している。

図書館の利用指導・資料の探し方講座について本学では1994年度から開始した。この間、学生の実態や大学の改組等に伴い、適宜内容や指導方法の見直しを行いながら実施してきた。ただ本学の場合、そうした図書館講座について当初から一貫しているのは、図書館員が一方的に説明していく講義スタイルは採らず、説明事項は最小限に抑え、学生が実際に体を動かしてその方法を実際に経験する方法を採ってきた点である。

今回発表するものは、5年ほど前から実施しているものである。学生各自が身体を動かして利用方法を学ぶ、という基本線は同じであるが、それまでのものと大きく改善した点として、従来1年と3年でそれぞれ実施していた利用講座を止め、1年から3年にわたって3年間で継続的に実施をするようにしたこと。学ぶ内容も学年が上がるにつれて次第に段階的に深化発展するように系統的なものにしたこと等があげられる。またこうした図書館での学習支援について、本学では図書館業務として規定されていなかったが、「多様な学習支援を行う」点を明文化し、図書館業務として明確な位置づけを行った。

今回の発表ではそうした本学での取り組みについて写真とともにご覧いただき、またこの機会にさまざまなご意見を頂戴し、さらによりよいものにしていきたいと思っている。

研究発表 4

「九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館の学習支援」

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館 矢崎 美香

本学図書館はここ数年(2011年～)で様々な取り組みを行ってきた。

一昨年は、文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に採択され図書館内の環境整備を行った。それと共に図書館におけるサービスのあり方も必然と形を変える事となった。その報告については、昨年度日本図書館協会第99回全国大会で発表した資料をご覧頂きたい。

始めは、図書館情報リテラシー教育の依頼件数も少なく、レファレンス・カウンターも所在質問のみで終わっていた。年々図書館情報リテラシー教育の依頼が増え、今年度は例年にない件数を実施した。また、レファレンス・カウンターに来る学生の質問も今までとは様変わりしている。本研究会においては、この2点の本学独自の学習支援の効果を発表する。

まず、図書館情報リテラシー教育については、依頼件数を年々増やしてきたが、今年度は授業回数を1回で終わっていた依頼が、複数回にわたる継続的な内容に移行したため件数が増加した。さらに特定学科の依頼により、カリキュラムの単位にはならないが図書館企画で15回の授業を実施した。単位に関係ない授業なので、学生の参加は期待できなかったが、ほぼ70%以上の出席率を維持して実施する事ができた。

もう一つは、レファレンス・カウンターでのサービスのあり方を変えた。そのきっかけは図書館情報リテラシー教育を受講した学生のスキル定着に着眼したことである。一斉講義(授業)の後に学生個人のスキルに合わせたフォローが必要であると感じた。その手法については、昨年度奨励研究の採択を受け「学習スキルの向上に資するポートフォリオ型レファレンス記録の構築と効果」平成25年度科学研究費助成事業(奨励研究)研究を行った。その際のレファレンス記録用紙をレファレンス・カルテと名付け導入を行い効果を得た。

これらの効果は他大学図書館においても取り組める事例ではないかと期待する。